

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	上越市家庭教育支援チーム (呼称:上越地区手をつなぐ育成会)
②活動拠点	上越市 育成会事務所
③活動範囲	上越地区(上越・妙高・糸魚川)・近隣地区
④組織体制	<u>2</u> 人 会長 1名 ・ 副会長、事務局 1名
⑤活動開始年度	昭和54年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 上越地区手をつなぐ育成会 副会長・事務局 山川 美香 (TEL)025-530-7788 (E-mail) j-ikuseikai@kve.biglobe.ne.jp

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	☒ 保護者等への学びの場の提供 ☒ 保護者等への地域の居場所づくり ☒ アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) { ☒自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒ その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	☒ 乳幼児 ☒ 小学生(低学年) ☒ 小学生(中学年) ☒ 小学生(高学年) ☒ 中学生 ☒ 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容	【具体的な活動内容】 知的・発達障害のある子どもの保護者へ、上越地域で福祉制度などを活用しながら生活するための、情報提供・相談を行っています。 障害のある人の余暇支援(行事)を行っています。 1. 講座の実施 障害のある子どもの幼少期から親なきあとまで、教育・福祉・医療の実経験などを、同じ保護者の立場で伝えています。 学校でのミニ講座、研修会等の講師、自主講座の実施、茶話会形式など、どこでも行き講座を行います。 支援が必要な子どもには、教育・福祉・医療が必要であり将来の準備が学童期から始まっていると話しています。 2. 「同じ立場の相談室」 経験者としての聞き取り、アドバイス、支援者へつなぐことなど、悩んでいる保護者の相談を受けています。 育成会事務所、学校、どこへも出向き相談に応じています。 3. 障害のある本人・家族への余暇支援(生涯学習) 知的・発達障害により地域の活動に入りづらいことが多くあります。 育成会では、同じ立場の団体なので「お互い様」という意識で行事に気兼ねなく楽しく参加してもらっています。 4. 関係機関との連携 障害児者が地域で暮らせるために必要な環境を、関係機関と協議しながら、地域へ提言しています。 重度障害者の生活の場が足りません。今の大きな課題です。
④活動の成果 (活動実績がある場合)	1. 令和6年度は 15 回の講座を行いました。障害児者の関わる福祉制度は教育現場では知られてなくて、本人・保護者・先生も困っています。 特に卒業後の生活に関する情報が無く、先の分からないままの子育て・教育にもなっています。 障害の受容や医療との連携、福祉制度の理解と使い方、成人になってからの実生活の話をし、本人が何を学べば良いのか考えてもらう講座です。 教職員向けの研修会講師から、学校での講師依頼にもつながりました。 厳しい内容(現実)ですが、学童期の保護者、先生方の知らないことで上越地域の現実を伝えています。 来年度の講習会講師依頼も来ています。

2. 当会事務所での相談、上越・妙高市での定期的な茶話会、学校へ出向いての個別相談など行っています。特に学童期の保護者は、卒業後の生活を知る機会が無く、先輩保護者としての情報提供が役立ちます。
- 育成会では幅広い年齢層の会員がいるので、学童期から本人の高齢期、保護者が亡くなった後の話まで伝えています。
- どこに相談して良いのか分からないケースには、各専門機関を紹介し初回相談などは同行しています。
- 一人で悩まないで、どこかにつながるようにと応援しています。
3. ハイキング、日帰り旅行、お楽しみ会、茶話会、ダンス・バスケットクラブ、園芸体験など行なっています。
- 学校を離れると、一人きり、家族単位の余暇の過ごしになります。障害があっても社会参加ができる場所は貴重です。
- 長年続いているので、楽しみにしている高齢の本人さんも多いです。
- 学童期の親子にとっても、社会に出る練習の場になっています。
- 地域では余暇支援をする福祉サービスが無いので、今後も継続していきます。
4. 関係機関との協議（行政、市議会、事業所、育成会の連携）
- 重度知的障害者の住まいについて、協議を重ねています。
- 福祉サービスを提供する事業所を招いての講座をこれから実施します。重い障害があっても地域生活できるように、団体として提言しています。

<講座に参加された方の声など>

令和6年度は教職員向けの講座が多かったです。

参加された教職員のアンケートの抜粋です。

- ・生徒の卒業がゴールでなく、将来的な自立を目指す大切さを学びました。実体験から、卒業後の生活を知ることができました。
- ・保護者の立場から、進路選択・将来のために必要なことを、分かりやすく教えていただき、保護者へどのように伝えれば良いか知ることができました。
- ・話の内容や表現がダイレクトであり、現状や実状にどう迫っていけば良いのかを訴えかける内容でした。
- ・卒業後の就労条件、賃金を具体的に知ることができました。
- ・ぜひ学校へ来て、保護者へも話して欲しいです。

	研修会に参加された教職員の方から、各学校での保護者へ向けの講座の実施につながりました 保護者からの相談も受け、関係機関への橋渡しも行いました。 教育・福祉・関係機関では言えないこと、出来ないことをしています。 令和7年度の講座の依頼も来ていますので、これからも地域から必要とされている活動と思っています。
⑤活動財源 (複数チェック可能)	☐ 文部科学省補助事業(事業名:) ☐ 文部科学省委託事業(事業名:) ☐ 厚生労働省事業(事業名:) ☐ 地方公共団体単独事業として実施 ☒ 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) ☒ その他の支援により活動を実施 (上越市中心身障害者福祉団体連合会、新潟県手をつなぐ育成会 新潟県・上越市赤い羽根共同募金助成金)